

北海道浮魚ニュース

平成 21(2009)年度 19 号 (通巻 No. 290)

2009 年 10 月 9 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎道東太平洋サンマ南下期調査結果

漁獲尾数は多く 魚体は大型魚主体で中型魚混じり

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ南下期調査の結果をお知らせします。今回の調査は、道東太平洋海域へのサンマの南下状況を把握することを目的に実施しました。

調査期間 : 2009 年 9 月 30 日~10 月 8 日

調査海域と調査点 (図 1) : 道東太平洋 (40° 30'N~42° 40'N, 143° 25'E~146° 50'E) の 15 調査点 (漁獲調査は 8 点)。

調査方法 : CTD による海洋観測及び 9 種類の日合 (22,25,29,37,48,55,63,72,82mm) の流し網を用いた漁獲試験を実施しました。

1. 表面水温(図 1, 表 1)

各調査点の表面水温は 14.9~19.9°C の範囲でした。南側 (St. 7) で高く、東側の 200 海里ライン沿い (St. 1, 2, 3) では、親潮系水と見られるサンマの分布に好適な 15°C 前後の水温が広がっていました。西側の十勝沖 (St. 12, 13, 14, 15) では 16°C 以上のやや高い水温でした。

2. 漁獲尾数と CPUE(図 1, 表 1, 表 2)

流し網調査の結果、サンマの総漁獲尾数は 6,508 尾でした。また、CPUE* (流し網 1 反あたりの漁獲尾数) は 58.0 尾でした。これを 2000 年以降の同調査結果と比較すると、漁獲尾数、CPUE ともに比較的高い値でした。サンマの分布状況としては、十勝沖合域では水温が高めなためサンマの分布は少なく、釧路・根室沖合域の水温 15°C 前後の海域に多く分布しているようです。

3. 体長組成(図 2)

流し網で漁獲されたサンマの体長範囲は、20~34cm 台でした。漁獲尾数の多かった釧路・根室沖合域 (St. 1, 3) では大型・中型魚が主体でした。三陸沖合域 (St. 7, 9, 11) では大型魚主体となっていました。漁獲尾数の一番多かった St. 3 では大型魚が主体で、これに中型魚混じりの組成でした。調査点全体の合計では全漁獲尾数に対して小型魚・ジャミの割合が 4% を占めていました。特大・大型魚の割合は 62% であり、昨年 (約 36%) よりも高い値でした。

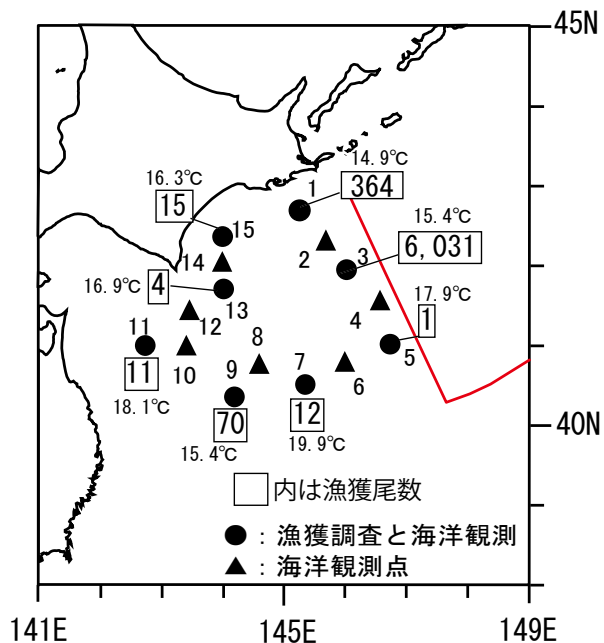


図 1 2009 年サンマ南下期調査の調査点ごとのサンマ漁獲尾数と水温

*日合 29,37,48mm の漁獲尾数から算出。1 反は 30 間切りで換算。

表1 2009年サンマ南下期調査結果概要

※目合22.25mm各1反(30間切り換算)、29.37.48mm各4反(30間切り換算)、55mm2反(30間切り換算)

St.	調査日 (揚網日)	位置		水温(°C)			サンマ漁獲尾数							
		北緯	東経	0m	50m	100m	目合22mm	25mm	29mm	37mm	48mm	55mm	合計	
1	9月30日	42-36	145-12	14.9	7.9	2.9	—	—	1	135	182	45	1	364
2	9月30日	42-20	145-40	15.4	8.8	3.3	—	—	—	—	—	—	—	—
3	10月1日	42-00	146-00	14.9	5.1	3.1	3	116	1,110	4,073	723	6	6,031	
4	10月1日	41-30	146-30	18.0	10.7	8.4	—	—	—	—	—	—	—	—
5	10月2日	41-00	146-50	17.4	10.8	8.2	—	—	—	1	—	—	—	1
6	10月2日	40-45	146-05	17.8	13.0	8.9	—	—	—	—	—	—	—	—
7	10月4日	40-30	145-20	19.9	12.8	9.8	—	—	2	7	3	—	—	12
8	10月4日	40-45	144-40	16.2	6.6	2.5	—	—	—	—	—	—	—	—
9	10月5日	40-21	144-10	15.7	6.5	4.8	—	—	1	52	17	—	—	70
10	10月5日	41-00	143-25	18.0	13.8	11.5	—	—	—	—	—	—	—	—
11	10月6日	41-00	142-50	18.1	12.6	9.3	—	—	—	10	1	—	—	11
12	10月6日	41-20	143-25	16.5	12.3	6.0	—	—	—	—	—	—	—	—
13	10月7日	41-40	144-00	16.9	5.9	5.7	—	—	4	—	—	—	—	4
14	10月7日	42-00	144-00	15.0	4.4	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—
15	10月8日	42-15	144-00	16.3	3.9	2.3	—	—	2	12	1	—	—	15
合計							3	117	1,254	4,337	790	7	6,508	

表2 サンマ南下期調査における漁獲尾数とCPUEの経年変化

	2000年	2001年	2002年	2003年*	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
漁獲尾数(尾)	608	8,124	2,168	2,425	168	1,851	9,005	316	200	6,508
CPUE(尾/反)	7.2	112.2	40.8	185.3	2.0	21.3	124.2	3.5	2.9	58.0
漁獲調査点数	7	6	4	1	7	8	6	7	5	8

*2003年は荒天、地震等により、漁獲調査点は1点のみであったため参考値。

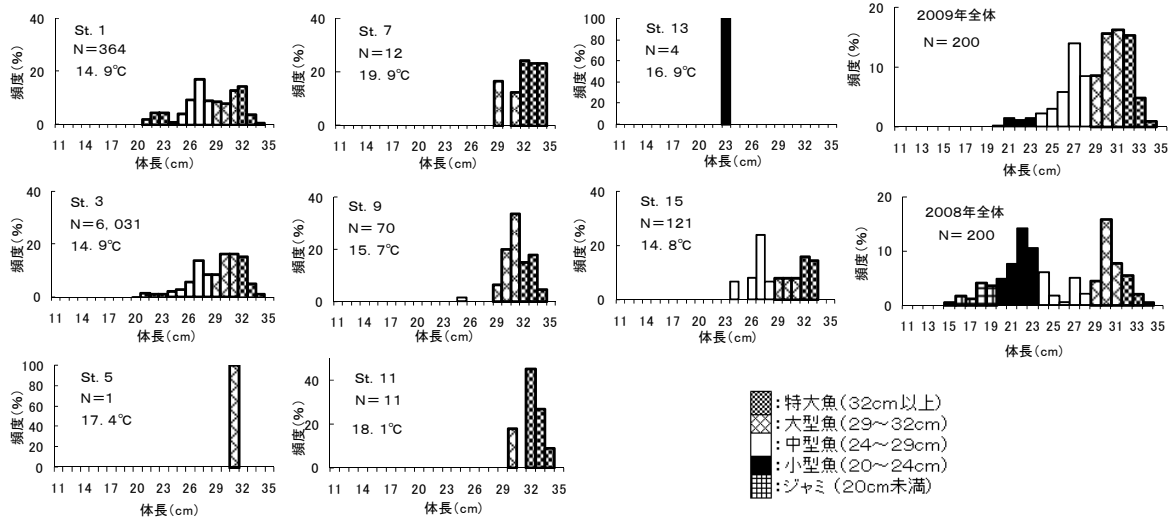


図2 2009年サンマ南下期調査におけるサンマの体長組成(Nは漁獲尾数, 温度は表面水温)

4. まとめ

この時期のサンマは、親潮水(冷水)の中を北方四島周辺から北海道・本州方面に向けて南下します。今回も漁獲調査点は、例年好漁場が形成される親潮水と北上暖水の潮境付近に配置しました。表面水温をみると、沿岸域(特に十勝沖)ではサンマの分布に好適な水温よりも若干高めであり、沖合域は高い水温でした。また、今年は漁期前から資源状態は良いと推定され、当業船の操業でも大型・中型魚主体で好漁が続いています。今回の調査結果では、襟裳岬沖で漁獲尾数が少なく、釧路・根室沖合域で漁獲尾数が多いことから、今年のサンマの南下は沖合域を南下しているものが多く、沿岸域に沿って南下しているものは少ないと考えられました。

(文責：釧路水産試験場 資源管理部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)